

日本とは全く違う環境で一人、スタートした留学  
誰も知り合いのいない土地に着いて、最初の一週間は  
電車の乗り方も何も分からず、寂しくて、なんでこんな  
遠くに来てしまったんだろうと嘆きました。しかし、す

ぐに寮で友だちができ、学校が始まってからは友だちも  
増えて2週目には楽しんでいる自分がいました。ただ、  
授業についていくのは大変で、第2、第3外国語で勉強  
することの難しさを痛感しました。なにかとグループワ  
ークの課題が多く、一緒に組んでくれますか?と聞くの  
も言葉の壁があり少しためらいがちで、特に断られたり  
すると落ち込みました。

自分が思った以上にモントリオールでは日本語を学ん  
でいる学生が多く。そういった生徒が主催する日仏言語  
交換集会で出会った友達にはずいぶん助けしてもらいまし  
た。何度か挫折も味わい、すべてを自分一人でやり通す  
ことも学び、留学前よりも一回り大きくなれたと感じて  
います。自分と向き合う時間を持てたことで将来への明  
確な目標もでき、この1年は自分にとって大きな収穫の  
年であったと思います。

# étudier le français au Canada

Yuki Nakanishi  
2005年 スイス在学



un bonhomme de neige



Montréal avec une amie ♪

# EMMAÛS

私の仕事は、寄付された洋服を売り場で整理整頓し、お店が開く日は売り子として働きました。お客さんは優しく、フランス語を教えてくれたりし、休憩も多く楽しかったです。参加した所ではさまざまな国や宗教の人がいて、その国のことや言葉を教えてもらうなどして交流しました。そのため、今まで意識していなかった国のことも知ることができるようになりました。しかし、洗濯機の場所やご飯の時間、仕事のスケジュールなどのルールを教えてくれる人が誰もいなかったの、自分で開拓していかなければならず、その時にフランス語が通じなく苦労しました。そして、文化が全く違うため、挨拶一つにしてもやり方が違い、戸惑うことも多かったです。

Hitomi Karai



2012年 編み部2年生



私はフランスの北東の街、ストラスブールに約1ヶ月間エマウスで仕事をしました。私がしたことは、ペンキ塗り、料理の下ごしらえ、掃除、リサイクル用の服の仕分け、りんご狩り、文房具販売などです。そこでの生活で一番大変だったことはやはり言葉です。フランス語だけでなく英語も拙かったので、エマウスにいる人々と意思疎通することは思った以上に大変でした。最初は何を聞かれているのかも分からず、また分かっていても今度は自分の言いたいことを表現できないということが多かったです。また英語を話せる人も少なかったの、フランス語を話さなければいけないことも多くありました。しかしこういう状況下だと、どんなに遅くてもどんなに発音が悪くても、なんとかして自分の意思を伝えなければいけないので、いろいろな言い回しを考えて話す、という癖をつけることができました。フランス人は皆優しく言葉のわからない私にも仕事のルールなどを身振り手振りを交えてたくさん教えてくれました。またフランス人だけでなく、さまざまな国の人がいるので、価値観の違いや彼らが日本をどのように見ているのかということも学びました。私は他のボランティアの女の子3人と過ごす時間が多く、彼女たちと一緒に街に出掛けたり、部屋で映画を見たり、さらに喧嘩しては仲直りしたりと充実した時間を過ごすことができました。エマウスで過ごした期間はたったの1ヶ月でしたが、「外国人と一緒に仕事をする」とその短期間で学べることができ、また「外国からみた日本」「日本の素晴らしさ」そして「フランスの素晴らしさ」を勉強することができました。そのおかげで自分の物事に対する考え方や、積極性も変わってきたと感じています。言葉の壁で辛いこともありましたが、得たものがとても多かったのでとても満足できました。

Marina Sobiguchi

